

理学部で令和2年秋学期に行なったFD研修会

令和2年10月21日13時15分よりのFD研修会

* コロナ渦の中の2021年度入試 最新動向と今後の入試展望

講師：駿台教育研究所 進学情報事業部長 石原 賢一 様

* 2020年度入学生 入学前教育プログラム実施結果報告

駿台教育研究所 西日本教育事業部 部長代理 納屋 健 様

駿台教育研究所 西日本教育事業部 課長 川邊 忍 様

内容：駿台教育研究所から講師の方を招き、入試展望と入学前教育プログラムの両方を聞く機会を作り、FD研修とした。

今後の18歳人口の減少は凄まじく、共通一次試験以降最大の落ち込みとなる。今後5年間で定員割れを起こす大学が激増するであろう。その一方で、ここ最近では入試周辺の度重なる変更や新型コロナウイルス感染症の影響によって受験生や高校側も相当苦勞している。そんな中、地元志向、安全志向の傾向が見られる。手にとって読む資料と、興味をそそる動画などを併用することが重

要であろう。

入学前教育プログラムについては、宇宙・気象学科を志望している生徒はよくできている。附属校の生徒に課題が見られる。例えば基礎的な英語力に課題が見られるので要注意である。

上記のような内容の、今後の我々の入試広報を考える上でも意味のある研修であった。

令和3年1月20日11時からのFD研修会

* 高校生に届く動画、届かない動画

講師：スタディプラス株式会社 大学広告事業部 第一営業グループ

チーフリーダー 大田 堯史 様

内容：ウェブ・オープンキャンパスを行うにあたり、高校生から見て良い動画とそうでない動画に関しての研修会が行われた。本日の講師の方が所属されている Study Plus という会社はスマホアプリの会社で、ユーザーが学習履歴をためて、同じ大学を目指す人たちと共有することで学びを進めるシステムを提

供されている。今の子供たちはシェアすることを良しとしていて、ここは大人の感覚とかなり異なっている。

子供にとって、動画や見るものである。ところが大学の動画は聴くものという印象が強い。面白くないと判断された動画は途中で見るのを中断されるし、面白いと思われたものは何度でも再生される。そのための工夫としては、つかみを工夫して、見易さ、飽きのこない作りを徹底させることである。また、ウェブ・オープンキャンパスを行う場合には、動画につながっていく導線設計が非常に重要であるとも聞かせていただいた。

当日の研修では、設計の具体例も多く話していただいた。これらはオンデマンド授業を作成する際にも言えることである。また、子供目線の動画作りの大切さも知った。参加者は大いに勉強になったと思われる。

令和3年3月2日11時からのFD研修会

*2021 秋学期オンライン授業等に関するアンケートについての報告

講師：学長室 IR 推進室 平野 伸明 課長

学長室 IR 推進室 白藤 康成 氏

タイトルにあるアンケート結果から秋学期の授業を振り返り、来学期への橋渡しとするべく、この研修会が実施された。

オンライン授業については全学的にコミュニケーションの難しさ、課題の多さを挙げている回答が多いが、これは理学部についても同様である。しかし、オンライン授業に不満というわけではなく、理学部では57%がオンライン授業に満足しているという結果が出ている。とはいえ、満足については自宅生が62%であるのに対して、下宿生は47%と開きがあった。学生にとって満足度が高い形式は「ライブ+オンデマンド」の形式であるという結果も出ている。人数の多い講義形式の授業はオンラインで良いと考えている学生は多い。演習形式の授業について、物理科学科と宇宙・物理気象学科が肯定的であるのに対して、数理科学科では皇帝の割合が下がっているのが特徴的である。

上記のような内容の研修であり、オンラインの良さと対面の良さを今後どのように生かし分けていくかを考える機会となった。